



こかげのにちじょう②

～二人で協力してマンガ家になろう～

鳴海 明敏

11 月某日

小学6年生の美華さんと、中学2年生の志野さんですが、これまではそれほど仲がよいわけではなかった二人が、このところ急接近しています。

聞いてみると、「ちゃお」というマンガ雑誌が作品を募集しているので、二人で協力して応募するのだということです。そして、将来は、学園を出て高校を卒業して、専門学校でマンガの勉強そして、その後は、二人で同居して、マンガ家として生活して行くのだそうです。さらに、「ちゃお」の募集に向けて、ホラー系と恋愛系の二本の作品を作り上げて、応募することとして、ストーリーは美華さんが担当し、絵は志野さんが担当すると、二人の役割分担もできているようです。

二人の普段の様子から、この関係がいつまで続くのかなあと思いながら、子どもたちから自分の「将来の夢」について聞くことが少なかったので、とても嬉しくなりました。

11 月某日

今年の6月から7月にかけて、入所児童や職員にコロナ陽性者が次々出て、保健所からクラスター認定されてしまいました。陽性児童については、小さくとても狭い施設なので形式的な対応だったのですが、施設内で隔離対応をしました。一方、元気な子どもたちは、行事の中止や活動の制限で、我慢を強いることになりました。

陽性になった職員は、自宅待機ということなので、その分勤務出来る職員には無理を強いることになってしまいました。職場で陽性の子どもたちに対応することになるので、自分の家族への感染を避けるために、ホテルから職場に通勤するようにした職員もいました。

なんとかして第7波をやり過ごして、ようやく落ち着いてきたところだったのですが、現在高校生の男児が一人陽性になり、施設内で隔離生活をしています。また、家族から感染した職員が一人自宅待機しています。

ニュースでは第8波という言葉も聞かれるようになりましたが、なんとかこの程度で収まって欲しいものだと、祈るような思いで生活しています。

11月某日

小・中学生は、市立小・中学校の分教室に通っています。分教室では、給食を提供して貰っているのですが、お願いしているのですが、修学旅行はまだ実現していません。小学校6年生と中学3年生は、「学園旅行」と称して、小学生は日帰り、中学生は一泊に日程で、職員と一緒に県内の近場に旅行しています。

11月某日

夕べの宿直職員から、夕べはとても穏やで段階①だったと報告があった。学園では、午前、午後、夜間と一日を三つに区切って、その時間帯の子どもたちの全体的な印象を記録して、申し送りで報告してもらっている。その評価は、その時間帯に勤務していた職員の“個人的な・感覚的な印象”で、「平穏で、落ち着いており、楽しかった①」から「とてもとても大変だった⑤」までの5段階で評価してもらっている。

毎日のように、誰かがイラついて暴れたり、仲良く遊んでいたのにこじれて衝突したり、椅子が倒され机の上のものがぶちまけられたり、ドアを蹴り外されたりということがあり、勤務する職員は大変なのだが、それぞれ職員が感じる大変さには、かなり大きな個人差があるだろうと思っているので、このような“個人的な・感覚的な印象”による評価を採用している。

どういう風の吹き回しなのか、とっても穏やかな“無風状態”が出現するときがある。子どもたちの顔ぶれなのか、職員の組み合わせなのか、それらの相乗効果なのか、その辺の仕組みが分かればいいなあとと思っているのだが。

(了)